

平成21（2009）年9月16日 文教市民委員会

- 1 北地区図書館建設と図書館10館構想について
- 2 ICT教育について
- 3 太陽光発電について

No.14 灰垣委員

数点お尋ねいたします。

まず、1点目は、北地区図書館建設についてですけれども、本会議の質疑の中で、複合施設というお話がありましたけれども、それについての市の現在の考え方を教えてください。

それと、10館構想というお話がありました。これ、ちょっと整理をしておきたいと思うんです。

平成6年3月に高槻市図書館整備懇話会というところが具申をされたというのが、10館構想というのがあったようなんですけれども。その後、市として検討して、10館構想は、歩いていける距離とかそういったことを考えた場合は、好ましいけれども、基本的には7館構想と。6つの地区生活圏に分けて、中央図書館は別に考え7館構想と。各地区生活圏に1個ずつという構想であったというふうに私は認識していますけれど、まず、それがどうなのかなということ。それから、現在、6つの生活圏というところで、空白地区というのは幾つあって、どういうところに当たるのかを、図書館の関係でお聞きいたします。

2つ目はICT教育です。これも6月の一般質問で申し上げましたけれども、校内LANが、平成20年3月時点で、全国62.5%の設置率に対して本市は100%と。評価される場所ですけれども、このICT教育、校内LANを利用して教育をしていくということで、三箇牧小学校だったと思うんですけども、我々も視察をさせていただきました。プロジェクターを利用して前に映してと、こういった作業で教育をされているということで、今回、モニターテレビが設置されるわけです。プロジェクターというのは、私も一度、市民会館のある部屋でお借りして使おうと思ったら、ちょっとわからなくて、結局、小さなモニターでやったという経験があるんですが、非常に時間を要するということがあって、お聞きしますと、そういうことがあるので、学校によっては特別教室で常時設置している、そういうところでICT教育ということを実施していると。中には、当然、教室で、休みの時間中に先生がセットをして、時間を要して授業に臨むというふうに聞いています。今回、地デジの関係とかということで、モニターを5、6年生の全教室に設置されるということですから、このことが解消されるのかなと思うんですが、その点、そういう理解でいいのかなということ。

もう1つ懸念されるのが、これも6月にも申し上げましたけれども、環境が整うということで、ハード面はこれで完了という形になるのかなと思うんですが、当然、電子黒板や、

さらにふやしていくということはあると思うんですけども、ソフトの分の問題というのは、やっぱり人間の分ですね。教員の方が十分に活用できるかということ考えたときに、ちょっと不安を感じています。先生が、教職員の方がスムーズに使えるような、そういった研修等はされるのか、また、今回、IT教育の支援員というのが雇用されると聞いていますけれども、この方たちはどういう仕事をされるのか、また、教職員の方たちと支援員の方たちの関係といいますか役割分担、こういったことはどうなっているのかということをお聞きします。

大きく3点目ですけれども、太陽光発電です。いろいろお話がありました。この太陽光発電を導入していこうというそもそもの目的といいますか、経緯といいますか、そういったものはどういうものなのかということ、まず第1問としてお聞きいたします。

No.15 岩佐地域教育室参事

北地区図書館の複合化につきましてのお尋ねでございますけれども、図書館以外の機能を付加するかどうかにつきましては、市全体の施策でございますので、市長公室を核に関係部局との調整、検討が必要であるというふうに考えております。

それから、図書館の整備につきましてのご質問でございますけれども、ご質問にございましたように、整備につきましては、高槻市の図書館協議会からの答申を受け、作成いたしました高槻市立図書館整備方針に基づきまして、中央図書館を含めまして7館を整備していく方向でございます。現在、空白地となっておりますのは、五領地区と高槻南地区の2地区でございます。

以上でございます。

No.16 加藤学校教育室参事

何点かのお尋ねだと思うんですけども。まず、今回の配置のモニターテレビにつきましては、小学校の普通教室等へ配置予定のパソコン、それから整備されている校内LANを短時間で準備ができ、子どもたちの興味を引くわかりやすい授業づくりが一層進むというふうに期待しております。

やはりICT教育の推進のキーポイントは、機器を活用した教材の充実にあると考えております。各学校で積極的に研究や実践を進めて、蓄積された多くの教材や活用事例を市全体として共有し利用できるように、教育センターのほうでも考えていきたいと思っております。こうした研究や実践を支援するために、今回、ICT教育支援員を配置する予定にしております。

また、教員のICTを用いた教育実践力の向上に向けて、教育センターにおける教職員研修の充実を図るとともに、本市における若い教員もふえておりますので、ICT教育を

担っていく人材を育成してまいりたいと思っております。

次に、そのICT教育支援員の職務等でございますけれども。教員免許のないことを想定しておりますので、機器の操作のアドバイスはいたしますが、直接、児童生徒に指導することは考えておりません。校内LANやICT機器を十分活用した授業推進のために、教材づくりを中心とした支援を行います。具体には、教材をデジタル化したり、授業に役立つホームページ集を作成したり、それを教育ネット内に蓄積して学校から取り出せるような形で、授業で活用できるようにすることなどを考えておりますので、よろしくお願ひします。

No.17 小原学務課主幹

太陽光発電を導入する目的でございますが、本市において、平成19年2月に高槻市地域エネルギービジョンを策定しており、新エネルギー導入普及の基本方針の目的に、地域として地球温暖化防止、エネルギー問題の解消に貢献することが掲げられ、また具体化の方向としまして、公共施設を対象に率先導入に努めるとあり、重要テーマの1つに、太陽エネルギーの利用が掲げられているところでございます。

また、このたびの経済危機対策におけるスクールニューディール構想を受けまして、エコ改修として太陽光発電の導入があり、今回、国の補助を有効に活用して、本市の環境政策の一環としまして、校舎棟の屋上に設置可能な小学校4校に太陽光発電を導入するものです。二酸化炭素の削減や省エネなどを行うことができる学校のエコ化の推進を図るとともに、環境教育にも活用してまいります。よろしくお願ひいたします。

No.18 灰垣委員

図書館ですけれども、複合施設、政策企画のほうでということですのでけれども、住民の方たちからの行政サービスコーナーという要望もあるようですし、我々、3月の代表質問の中でも盛り込ませてもらいましたけれども、どうかその点は考慮していただきたいと思っております。

そして、7館構想ということで、2つの地域が空白地であると。平成7年9月に、高槻市立図書館運営整備基本方針という形で、最初に7館構想が公表されたと思うんですけれども、10数年たってますし、当然いろんな課題もありますけれども、早急にこの構想が実現できるようにお願ひをしておきます。

それからICTでございますけれども、支援員の方というのは教員免許等なり、そういう基準がないということで、私がちょっと懸念したのは、教職員の方とどういう関係を持ってやられるのかということで、今、お話を聞いて納得をさせてもらったところですので、そういう意味では、現在も、センターのほうでもそれなりに、パソコン等に、技術

にたけている人もいらっしゃると思うんですけど、それ以上の知識や専門的な技術が必要になるのかなというふうに思いますけれども、そういう方たちを採用——3人というふうにお聞きしていますが、採用されるに当たってどういう手続をとられるのかをお聞きいたします。

太陽光発電に関しては後ほど私の意見を述べさせていただきますので、以上お願いいたします。

No.19 加藤学校教育室参事

I C T教育支援員の採用についてということでございますけれども、緊急雇用創出基金を活用いたしますので、ハローワーク等への登録も必要となりますが、広報、ホームページ等で公募したいと考えております。

また、教員免許やコンピューター関係の資格等は特に問いませんが、一定の知識、技能等が必要になってまいりますので、面接や技能テストを実施して、必要な資質を備えた人材を採用したいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

No.20 灰垣委員

スクールニューディールということで、これは6月ですから、きょう、新内閣が発足するわけですが、その当時の文部科学省のスクールニューディール構想ということで、学校施設はそこで学ぶ児童生徒のみならず住民にとって最も身近な公共施設の一つです。このため、安全・安心で環境にやさしい学校づくりを進め、耐震化、エコ化、I C T化といった課題に取り組んでいくことは、児童生徒だけでなく地域や社会全体にとっても重要なことであると、こういったお願い文が出されています。そして、スクールニューディール構想の推進が地域経済への波及効果をもたらし、地域の活性化にも資するというのが期待されているということでもあります。

太陽光発電、確かに費用対効果だけを見ると、それだけを聞いていると、市民の方も納得されないようなことになるのかなと思います。環境教育ということもありますけれども、きのうの夕刊でしたが、20世紀最大の環境破壊ということで、中央アジアのアラル海というところが、びわ湖の100倍の湖が9年で枯渇したという。これは温暖化とは余り関係がない、要するに、製綿栽培のために水を抽出するというので、多くはそこで減ってしまったということになるんですが、20世紀最大の環境破壊というふうに新聞ではうたっていました。

こういう環境というのは、学校でどれだけしたから、ほんなら環境対策にという結果を求めるといことを考えれば、わずかなことかもしれませんが、住民の、国民の意識とい

うか、そういう部分を喚起するには非常に重要な施策だと思っています。この環境破壊というのは、私なりの考えで、人間のエゴがつくっていったものじゃないかと。それを濁りをとってエコ化をしていこうと、こういったことも考えていくべきじゃないかなというふうに思っています。

そういった意味でも、スクールニューディールというのは、将来的な、未来の先行投資というか、そういったことも考えて、非常に重要な視点だと思いますので、今までご意見もあつた中も含めて、さらに進めていっていただきたいということをお願いしておきます。

最後に、きょう先ほど言いましたように、新たに政権、新内閣が発足しますけれども、これらの補正予算が凍結されないことを改めて期待を申し上げて、質問を終わらせていただきます。